

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・最近では売上が大変好調に推移している。特に顕著な動きとして、当地に入港しているロシア船に積み込むウィスキー、ブランデー、ウオッカなどの注文が増えている。また、8月については、大型客船への納入が新規に決まったことも売上に大きく寄与している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・8月30日現在の乗降客数は前年を約13%上回っており、10か月連続で前年を上回っている。
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・8月に入っても外国人客を中心に売上が伸びている。特に特選ブティックブランドや化粧品伸びが高くなっている。ただ、一般客向けのデイリー商材の需要はやや低下している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・お盆商戦はピークの前倒し傾向がみられるものの、総じて前年の売上を上回ることができた。また、プレミアム付商品券が発行されている市町村の店舗では総じて売上が好調に推移している。
		スーパー（役員）	単価の動き	・プレミアム付商品券の効果で、お盆期間の買物を中心に5%ほど客単価が上がっている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・お盆期間については、スイカやメロンなどの単価の高い商材が好調に動いたこともあり、前年以上の売上を確保できた。イベントなどに対する消費が回復傾向にあることから、やや良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は天候が回復したことなどから、新商品の販売が好調であり、売上も回復傾向にある。観光客の動向も良かった。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・8月の売上は前年比108%であった。売れると予想した商材の陳列を強化するなど、メリハリのある売場づくりが奏功した。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・浴衣の売上は、夏祭りにあわせて各団体、企業からの注文があったこともあり、例年どおりであった。一方、8月にホテルで行った展示会催事では、高額商材を買う客もみられたが、売上は前年並みであった。夏祭りにあわせて、たくさんの方が市街地に出てくるものの、大型量販店が郊外に進出してから、市街地の消費者の流れが変わっており、夏祭り期間中以外の平日は市民、観光客ともに入客が少なくなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月前半は猛暑の影響もあり、エアコン、扇風機、冷蔵庫、洗濯機などがよく売れた。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格の急落により、石油製品価格も下落しており、それに伴い販売量が伸びている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・知床の世界遺産登録10周年に伴い、道東の露出が増加していることで観光客も増えている。また、例年どおりスポーツ合宿の動きが活発なこともあり、夏季の需要は堅調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・8月は添乗や大会、イベントのあっせんで客と接する時間が多く、客の飲食、土産などの消費動向をみる機会が多かったが、旅行先においても、当地においても、客が消費を抑えている様子はみられず、むしろお金を使っているという雰囲気が強かった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・8月は夏休み期間中だったことから、観光客が多く、売上も3か月前と比べて約27%上回った。前年比でも約5%売上が増えていることから、景況感はやや良くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・観光、特にホテル関連が堅調であり、業界からの良い話を耳にすることが増えてきている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較すると、ツアー客の数は減少しているが、外国人を始めとする個人旅行客が増加している。
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き
商店街（代表者）	お客様の様子		・客の反応は変わらない。天候要因に影響されることもなく、同じような動きとなっている。	

商店街（代表者）	来客数の動き	・ 8月中旬までは地元イベント期間ということもあり、主に飲食関連を中心とした業種で売上を伸ばしたが、物販店に関しては、中元商戦、ボーナス商戦の時期であるにもかかわらず、客の買い控えがあり、例年よりも落ち込んだ店舗が散見された。また、市内では他県ナンバーの車もよく見かけたが、当商店街の区域ではあまり駐車していなかったことから、商品購入のためではなく、通過点としての意味合いが強いことがうかがえる。これらのことから、全体としては景気の状態はあまり変わっていない。
商店街（代表者）	販売量の動き	・ 悪天候の日がそれほどなかったことから、消費が好調に推移するとみていたが、ファッション関連が例年並みで推移したほか、行楽地の入込も横ばいで推移するなど、上昇機運が感じられなくなった。8月は全国大会などが多く開催されたことで、ホテルなども満室の日が多かったが、消費は前年と大きく変わらず、残念な結果であった。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ 8月は文化催事の展開に伴う集客があったものの、夏物セールの婦人関連の売上が前年の90%台となるなど、前年を大幅に下回った。中元商戦に関しては、6月の早期受注が好調だったことの反動で、後半戦の8月に入ってから失速している。また、8月下旬から、秋物の立ち上げを展開しているが、定価品の売上はまだ前年の95%にとどまっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ 改装工事に伴う売場面積の減少があるとはいえ、外国人観光客による売上が200%の伸びとなったにもかかわらず、全体では前年並みの売上にとどまっている。また、中元商戦については、来客数が前年比97%と若干マイナス傾向にあるが、客単価が上昇したことで前年並みを維持している。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・ 8月上旬は景気が上向くような兆しがみえたものの、お盆を境に以前の状態に戻っている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ 売上、販売量共に前年比86%と前年の80%台となっており、低空飛行の状態が続いている。
スーパー（店長）	単価の動き	・ 8月の売上は前年比104%と回復傾向にあるものの、買上客数は前年比98%となっており、前年割れが続いている。その一方で、客単価は前年比106%と上昇しており、客1人当たりの買上点数が増加傾向にある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 来客数が前年を下回る状況が続いている。
コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・ 引き続き外国人観光客が増えている。
衣料品専門店（店長）	単価の動き	・ 客単価が前年と比べて、2,000円の減少となっている。客の財布のひもが固く、必要な商材しか買わない流れとなっている。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・ セール期間に入っても単価の高い商材の動きが悪い。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 来客数が減少しており、販売台数の上向かない厳しい状況が続いている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ なかなか市場に伸びがみられるようになってこない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 7月と比べて、全体的に販売台数が伸びていない。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・ 新車、中古車共に受注量が一向上向いてこない。新型車が投入されても、その分が上乗せにならない。中古車も展示場に来店する客がめっきり減ってきている。
自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・ 集客CMやダイレクトメールなどの施策を行っているにもかかわらず、車検の売上は、車の保有台数減少や車離れの影響もあり、前年並みにとどまっている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ 8月は好天の日が多く、郊外に出かける客が多かったことから、売上は前年を下回った。また、料金を下げたメニューに人気が集まるなど、とても景気の高揚は感じない。前年度の北海道の観光入込客数が過去最高となったが、34%も増えた外国人観光客が頼みの綱であり、外国人対応していない飲食店や外国語のホームページを持たない飲食店にとって恩恵はなく、逆に円安に伴う輸入食材の値上げで音を上げている店も多い。

	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊予約が活況で状態は横ばいで推移している。国内客、外国人客共に団体予約が好調である。
	観光型ホテル (役員)	単価の動き	・全体的に宿泊単価を上げることができており、3か月前と変わらず売上は増加傾向にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・8月はタクシー1台当たりの売上が前年を上回ったが、乗務員不足でタクシーの稼働率が悪く、会社の売上としては前年を下回った。
	タクシー運転手	販売量の動き	・イベント需要が一時的に売上を下支えしている状態にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・実績、予約状況共に前年並みでほとんど変わっていない。イベント関係の業務がわずかではあるがプラスとなっている一方で、観光関係がマイナスとなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・社員の高齢化に伴う社員数の減少により、売上が減っている。他産業による雇用が好調なため、新入社員を確保しづらい状況にあるため、運転手1人当たりの売上を伸ばす工夫を模索している。
	通信会社 (企画担当)	来客数の動き	・例年に比べて、都市部、地方、年齢層を問わず来客数が少なく、その影響で売上も伸びなかった。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・株価が思った以上に上昇しない状況にあるため、景気は踊り場を迎えている。また、株価が乱降下しているため、非常に難しい局面となっている。
やや悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き	・毎年、お盆期間中は家族での来店が多くなるが、今年は例年よりも少ない状況にある。
	一般小売店 [土産] (経営者)	来客数の動き	・バンコクでの爆破テロの影響もあり、8月後半になり、特にタイを中心とした東南アジアからの観光客が減っている。タイの航空会社も9月の減便を決定したそうである。
	百貨店 (販売促進担当)	それ以外	・消費税増税後の反動増がみられた3か月前との比較では、増加幅が徐々に縮小傾向にある。春夏物の処分時期の違いや天候不順などの要因があるにしても、顧客の購買動向は鈍化している。競合店出店の影響により落ち込んだ商品領域の回復もみられない。
	スーパー (店長)	競争相手の様子	・最近の食品部門の消費者動向をみると、競合店を含めて価格に敏感に反応しており、価格訴求が弱いチラシを出しても来客数が増えない状況にある。
	スーパー (企画担当)	単価の動き	・相次ぐ食品価格の値上げが、客の財布のひもを一層固くしている。
	その他専門店 [医薬品] (経営者)	販売量の動き	・これまで年金の支給月は比較的安定感があったが、8月は今一つである。客が健康に関する不安よりも、財布のひもを気にしており、厳しい状況にあることがうかがえる。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・当店はランチのウエイトが大きいですが、夏休み期間に入ってから、ランチの来客数が前年を12%下回っている。ただ、ディナーの来客数は前年を上回っている。来年3月の北海道新幹線の開通を控えていることで、観光客が当地よりも他地域を訪れるようにしているのが、最終的に8月の来客数は前年を10%下回った。
	旅行代理店 (従業員)	単価の動き	・以前よりも、客から安くといわれる案件が増えている。
	美容室 (経営者)	お客様の様子	・食品などの値上げが続くなか、客の所得が増えていないため、可処分所得が減少しており、以前よりも支出を控える傾向が出ている。
	美容室 (経営者)	来客数の動き	・来客数が前月や前々月よりも約5%落ち込んでおり、前年比でも約10%の落ち込みとなっている。
	設計事務所 (所長)	お客様の様子	・これまでの反動が、一時期の上昇気分が少し冷めてきている。
	住宅販売会社 (役員)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の歩留まり率が低下しており、契約率が低下してきている。
悪くなっている	コンビニ (エリア担当)	販売量の動き	・沿岸地区の店舗の売上が厳しい。台風によるこんぶ漁、さんま漁の不調が大きな要因となっている。また、競合店の出店が続いていることの影響も大きい。観光客の来店もみられるが、客単価が低い。
企業動向関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	家具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き

(北海道)		金融業（企画担当）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の大幅増加により、観光関連のホテル、旅館、観光バス、菓子メーカーなどが堅調である。外国人旅行者向け消費税免税制度を活用した免税店も増加しており、外国人客でにぎわっている。設備投資は半年後の北海道新幹線開業と外国人観光客受入のため、道南、ニセコ、札幌市内などでホテルの新設、改装が増加している。 	
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先において、拠点のリニューアルなどの設備投資の動きが活発になっている。 	
変わらない		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・受注状況を見ても3か月前と特に変わらない状況にある。 	
		建設業（従業員）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・民間から見積の引き合いがあるのはホテル業界くらいであり、それも新築はなく、改修程度である。製造業の建設投資や分譲マンションの新規着工もほとんどみられない。需要がみられるのは公共工事が中心であり、それも例年より低い発注額となっている。 	
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料品、医薬品、生乳の道外向け輸送は順調であるが、紙製品の売行き不振により、全体的な輸送量が落ち込んでいる。 	
		輸送業（支店長）	競争相手の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり良くない状態が変わってこない。同業者との情報交換においても目立った進展がみられない。ただ、情勢が後退するような話もみられない。 	
		司法書士	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な不動産取引、特に宅地造成している土地については、大手のハウスメーカーが土地付き建売住宅を販売しているため、比較的取引量が多いが、それ以外の取引については変化がみられない。 	
		司法書士	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・景気回復の兆しがみえてこない。不動産取引の引き合いはあるものの、契約が成立しない案件が多い。 	
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に比べて、公共工事の予算が減額されていることで取引先の疲弊が目立っている。 	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・8月は建設着工面積が多いにもかかわらず、売上は3か月前とほとんど変わらない。 	
やや悪くなっている		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・6月ごろから売上の前年割れの状態が続いている。 	
			-	-	-
雇用関連	悪くなっている		-	-	-
			-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・道内においても有効求人倍率が過去最高を記録しており、実際に人材不足の様相となっている。人材紹介事業への求人数は増加傾向にあり、派遣のオーダーも多くなっている。最近は軽作業系のオーダーが目立っている。本来であれば、パートやアルバイトで対応していたはずの業務であるが、パート、アルバイトを集められないほど、求人がタイトになっているようであり、全体的に企業活動が活発になっていることがうかがえる。 	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・月間有効求人数が66か月連続で前年を上回っている。特に新規求人数は前年比で12.9%の増加となった。また、来春卒業予定の新規高卒者に対する求人は、企業の人材確保の出足が早いこともあり、前年比で23.5%増加しており、求人倍率は前年を0.51ポイント上回る2.29倍となっている。 	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月連続して新規求職者数、有効求職者数が減少しており、有効求人倍率も過去最高値となった。 	
変わらない		求人情報誌制作会社（編集者）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢人口の減少や季節変動といった要因があることを考慮しても、中途採用においては相変わらず非正規の求人が多い状況にある。 	
		求人情報誌制作会社（編集者）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトやパートも採用しにくく、口コミや紹介などの手段も使わなければならない状況となっている。一方、今いるスタッフの正社員化でサービス向上を図る動きもみられる。これらのことにより、多少ではあるが正社員の求人が増えている。 	
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・正社員の求人は、看護師など、あらかじめ応募者が絞られるような職種が多い。 	

やや悪くなっている	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 募集広告の売上をみると、加工・製造、環境衛生、不動産の落ち込みが激しく、全体でも前年の90%にとどまった。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 求人数が減少傾向に転じている。新規求人数は前年を6.6%下回り、20か月ぶりに前年を下回った。月間有効求人数は前年を1.7%下回り、29か月ぶりに前年を下回った。
悪くなっている	-	-	-